

ヨハネによる福音書 4章 39～42節

今月はいよいよ、ヨハネによる福音書が丸々2 ページ以上にわたって記す「サマリアの女性と、サマリアの町シカルの人々の出来事」の締め括りの部分です。ヨハネはなぜ、こんなにも大きなスペースをこれらの出来事に割いたのでしょうか。出来事の全体から、私たちははたして 何を聴き取り、どんな生き方へと押し出されるのでしょうか。

事は、サマリアの町シカルで起こりました。ユダヤ人と縁を切っていた いわばユダヤの外にあったサマリアの町で、ユダヤ人の側からすれば（これまでの学びですでに触れたように）軽蔑さえしていた町です。公におおやけに宣教を始めて わずかしか経っていないときに、イエスはよりによって、そこに立ち寄られたのでした。その意味は決して小さくないはずです。

出来事の全体をいま一度 振り返ってから、今月の結びの部分を見ることにしましょう。

全体を振り返って (4:1～42)

・順を追って、事の成り行きを見てみましょう。

①まず、サマリアの女性がイエスに出会い、その内に尋常でないものを感じ取ります (7～26)。

②そして、そのことを、彼女が「町に行き、人々に言った」(28)。

(直後に、挿話として、弟子たちの知らない食べ物と実った畑をめぐる イエスと弟子たちとのやり取り (31～38) が挿入されていますが)

③すると、「町の多くのサマリア人は・・・(その) 女の言葉によって、イエスを信じた」(39) といえます。

④それだけでなく、「このサマリア人たちはイエスのもとにやって来て」(40)

⑤「自分たちのところにとどまるようにと頼んだ」(同) のでした。

⑥イエスもまた、これに答えて「二日間 そこに滞在された」(同)。

⑦そして、そのようにして、「更に多くの人々が、イエスの言葉を聞いて信じた」(41) というのです。

今月の箇所を目を移して (39～42)

・以上がサマリアでの出来事の全体ですが、それにしても、

①サマリアの女性の何が、町の人々を信仰に導いたのでしょうか。

言い方を換えるなら、町の人々がイエスを信じたきっかけとは 実際のところ、何だったのでしょうか？

②また、初めに「町の多くのサマリア人は・・・女の言葉によって、イエスを信じた」(39) とあり、続いて「更に多くの人々が、イエスの言葉を聞いて信じた」(41) とありますが、これらは ど

ちらも同じことでしょうか。もし違うとしたら、どこがどう違っていて、そこにはどんな意味合いがあるのでしょうか。

・そして、ヨハネは最終的に、「わたしたちが信じるのは、もうあなたが話してくれたからではない。わたしたちは自分で聞いて、この方が本当に世の救い主であると分かったからです」(42) と語る町の人々のその言葉を記していますが、「もう・・・」という一言の ^{ひとこと} その前と後とではどうでしょうか。違いが有るや無しや？ あるとしたら、何がどう違うのか？ そして、そこには どんなメッセージが置かれているのか？

使徒言行録の 17 章 10～12 節等も参照しつつ、考えてみてはいかがでしょうか。

「自分たちのところにとどまるようにと頼んだ」(40)

・ちなみに、ここで「頼んだ」とある語は、元のギリシア語 (^{エーロートーン} ^{エローターオー} ἠρώτων<ἔρωτάω) を見ると、「(しきりに) 願い続けた」というニュアンスの表現 (過去における継続や繰り返しを表わす未完了過去) で記されています。つまり、シカルの町の人々はたしかに、^{あか} サマリアの女性の証しによって イエスのもとに赴いた。が 彼らは、それだけでよしとはしなかった。自分たちの所に ^{とど} 留まってくれるよう熱心に懇願を繰り返した、というのです。

・シカルの人々のそんな姿勢から、私たちははたして、何を教えられ、何を学ぶことができるでしょうか。